



今日のトピック 前年比ほぼ横ばいの4-6月期米企業業績
10-12月期以降の業績は成長が加速する見通し

ポイント1 前年比ほぼ横ばいの4-6月期の米企業業績
「コミュニケーション・サービス」が前年比2桁の増益

- 米企業の4-6月期決算の発表が進んでいます。調査会社リフィニティブによれば、約59%の企業が決算発表を終えた7月31日時点で、S&P500種株価指数に採用された企業の2019年4-6月期の純利益は前年同期比+1.3%です。4月1日時点の同+2.8%予想からは下方修正ですが、7月1日時点の同+0.3%からは改善しており、4-6月期の純利益は前年同期比ほぼ横ばい程度で落ち着くと思われます。
- セクター別に見ると、「コミュニケーション・サービス」が同+18.3%と堅調です。同セクターにはフェイスブックやIT大手グーグルの持ち株会社アルファベットなどが含まれています。フェイスブックの1株当たり利益は1.88米ドルの予想に対して1.99米ドル、アルファベットは11.19米ドルの予想に対して11.48米ドルと、いずれも好調でした。
- また、「情報技術」は同▲3.2%の減益となる見通しです。ただ、4月1日時点の同▲5.8%、7月1日時点の同▲7.9%よりも減益幅は抑えられそうです。中心となるアップルの4-6月期の1株当たり利益は、2.10米ドルの予想に対して2.18米ドルと堅調でした。iPhoneの販売が落ち込んだものの、サービス収入などが好調だったことが背景です。 ※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

【S&P500採用企業の1株当たり予想利益】

(前年同期比、前年比、%)

セクター\年月期	時価 総額比 (%)	2019				2020		2019 (予想)	2020 (予想)
		1-3月 (実績)	4-6月 (予想)	7-9月 (予想)	10-12月 (予想)	1-3月 (予想)	4-6月 (予想)		
S&P500全体	100.0	1.6	1.3	▲ 0.7	5.7	9.5	11.2	1.9	11.3
一般消費財	10.2	8.1	▲ 0.2	2.7	7.0	7.5	16.3	4.3	12.2
生活必需品	7.4	1.0	0.9	0.5	3.6	6.2	6.8	1.5	7.0
エネルギー	4.9	▲ 26.1	▲ 12.1	▲ 19.0	▲ 14.2	56.3	32.5	▲ 15.3	29.7
金融	13.1	8.0	9.7	4.6	16.4	4.2	2.7	9.2	6.1
ヘルスケア	13.7	10.3	8.4	2.6	7.7	6.5	2.8	6.7	8.7
資本財・サービス	9.3	6.9	▲ 10.7	2.6	5.8	9.6	31.1	0.7	17.4
素材	2.7	▲ 13.4	▲ 32.9	▲ 17.1	▲ 9.5	▲ 4.8	19.3	▲ 21.6	15.8
不動産	3.0	6.2	3.4	3.4	6.3	3.6	5.4	4.4	5.9
情報技術	21.9	▲ 1.1	▲ 3.2	▲ 5.7	3.4	9.4	11.5	▲ 1.6	12.6
コミュニケーション・サービス	10.5	▲ 9.9	18.3	1.8	4.2	19.7	11.1	3.2	12.7
公益事業	3.2	▲ 0.5	▲ 1.0	4.1	16.7	3.7	8.4	4.2	5.6

(注) データは2019年1-3月期～2020年4-6月期、2019年～2020年。予想はI/B/E/S (2019年7月31日発表)。

時価総額の構成比は四捨五入の関係で全体合計と一致しない場合があります。

(出所) リフィニティブのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。



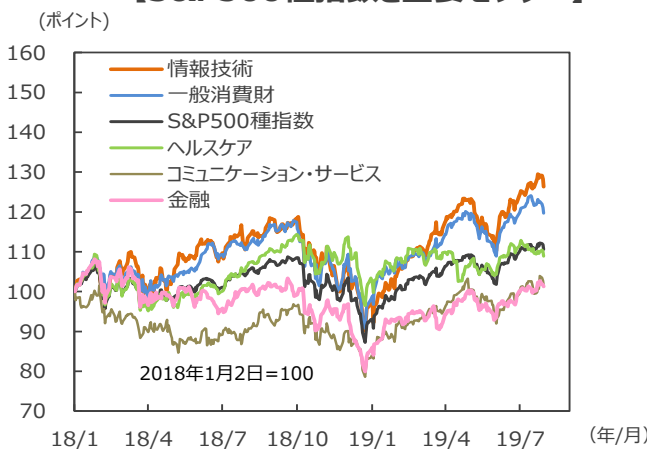
ポイント2 7-9月期がボトム。10-12月期以降は成長が加速する見通し
米国景気は年後半から緩やかに持ち直そう

- 続く7-9月期のS&P500全体の1株当たり予想利益は、7月末時点で前年同期比▲0.7%と慎重な予想に下方修正となっています。6月末時点の集計では同+0.8%でした。6月末時点と7月末時点の予想利益伸び率をセクター別に確認すると、「情報技術」が▲6.4%⇒▲5.7%、「コミュニケーション・サービス」が+1.0%⇒+1.8%と小幅な上方修正となっていますが、「一般消費財」が+6.8%⇒+2.7%と大きく下方修正されたほか、「ヘルスケア」が+3.3%⇒+2.6%、「金融」が+6.8%⇒+4.6%にそれぞれ下方修正となりました。時価総額上位のセクター以外では、「エネルギー」が▲13.6%⇒▲19.0%に下方修正となりました。7-9月期は総じて利益の伸びが鈍化する局面となりそうです。
- しかし、米国の企業業績は7-9月期を底に、10-12月期以降は成長が加速する見通しです。米中の対立継続がリスク要因ですが、更なる対立の激化は回避されると考えられることや、米連邦準備制度理事会（FRB）が7月末の利下げに続いて予防的な追加利下げを行う可能性が残ること、また、半導体サイクルに底打ちの兆しが確認されつつあることなどを背景に、米国景気が年後半から緩やかに持ち直すと期待されるためです。

今後の展開 予想PERで15~17倍程度のレンジでの推移が見込まれる

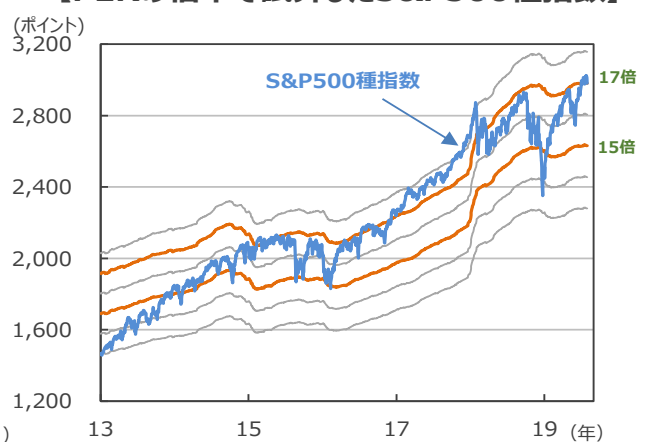
- S&P500種指数の12カ月先予想株価収益率（PER）は17.0倍です（7月31日現在）。今後は予想PERで15倍~17倍程度のレンジで推移すると考えられます。米中貿易摩擦による生産へのマイナスのインパクトは7-9月期の業績に反映されると思われ、上値が抑えられる可能性があります。一方、FRBは景気の下振れリスクに対する警戒は緩めておらず、ハト派的な金融政策が継続するとの期待が株価を支える要因になると考えられます。

【S&P500種指数と主要セクター】



(注) データは2018年1月2日~2019年7月31日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【PERの倍率で試算したS&P500種指数】



(注) データは2013年1月2日~2019年7月31日。株価収益率（PER）の倍率（13倍~18倍）に1株当たり予想利益をかけてS&P500種指数の水準を試算。1株当たり予想利益は12カ月先予想ベース（I/B/E/S予想）。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ここもチェック! 2019年8月 1日 米国の金融政策：2008年12月以来の利下げ（2019年7月）
2019年7月30日 投資環境の見通し（2019年8月号）「問われる景気の「地力」」

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。